

最近中国で発見された新鉱床

岸本文男(地質相談所)

Fumio KISHIMOTO

IV 広東省で一大金鉱床

地質鉱産部の専門家の最近の話によると 広東省高要県の河台金鉱床は 全国の現在探査・確認済み大型金鉱床の中では三番目に大きく 揚子江以南では最大の金鉱床であり しかも全国でもっとも高品位の大型金鉱床である。

この金鉱床は 高要県の北部にある。1983年 地質調査員がまずこの地で一つの 新形式の変質岩型金鉱床を発見した。この発見が七一九地質隊と広東省地質鉱産局指導部技術専門家の注目するところとなり 直ちに「広域展開 重点突破」という方針が決定され 「広域調査 重点区調査 地球物理探査・地化学探査 探査試錐 室内科学研究」の5項目を統一的に実施する方法を採用することとし 1,000名を越える調査隊が組織された。そして高村鉱床を重点とし 河台とその外周地域を合わせた2,000km²の中で速やかに金鉱探査を行うことを確定した。2年間の努力によって 高村鉱床の平均 Au 品位が鉱業に要求する最低必要品位の3倍を越え 含金量は大型鉱床の規模に達することが確認された。同時にすでに可採金脈が17条把握され その中でとくに規模が大きい脈は5条である。現在も調査と探鉱は緊張裡に進行中である。張友生 葉国志 (中国地質報 1986.3.24)

V 湖北省銀洞溝で大型銀金鉱山

湖北省竹山県銀洞溝の銀金鉱床をできるかぎり早く開発するため 銀洞溝大型銀金鉱床調査報告が1年繰り上げて評価・審議された。3月8日から12日まで 湖北省鉱産資源鉱量委員会は北京市 湖南省 湖北省の40数名の専門家と指導者を集めて この地質探査報告に対する審査を行った。

銀洞溝の大型銀金鉱床は 湖北省地質鉱産局第5地質大隊の12年にわたる調査と探査によって発見され 鉱量も算定されたもので その鉱石が選鉱しやすく 開発・採鉱条件が優れ かつ経済性が高いことも明らかにされた。

1984年12月 湖北省冶金工業総公司是省内外の生産部門・企画部門と会合して 稼行の是非と規模などの研究を進めた。そして 当該鉱床は 1日当たり粗鉱 400t 処理で計算すると 年に銀24t 金 200kg を得ることができ 年に690万円の利潤を得ることが可能という結

論が引き出された。このため 省 地方 県と工業部門はいずれもこの鉱産資源の開発を希望し その効果が早く発揮出来るよう要望した。

本年の初頭 湖北省の地質鉱産局と冶金工業総公司是同じく湖北省の経済計画委員会の考えにもとづき 地質隊の前期調査・探査への投資が比較的大きく 当面探査費が不足している状況と結び付けて 一つの協定書を取り交した。協定書は 地質鉱産部門が1年早めて地質探査報告と関係図類を提出するよう 求めている。冶金工業総公司是 湖北銀鉱山から湖北省地質鉱産局第5地質大隊の成果の有償譲渡を受け その有償譲渡費100万円を湖北銀鉱山が引き受け それで地質探査費を補填することに同意した。甘理明(中国地質報 1986.4.4)

VI 永豊県で超大型螢石鉱床を発見

国家建材局地質公司の江西地質勘探大隊は 江西省永豊県内で超大型螢石鉱床を探査・確認した。探査の各工程を経て 当該鉱床が非常に大きい1条の螢石脈で構成され その延長が6.7kmに達し 脈の殆ど全部が螢石で構成され 螢石の単鉱物脈に属することが明らかになった。サンプルを採取し 化学分析の結果によると CaF₂含有率は80.6%以上 最高92.83%であった。曾祥林(中国地質報 1986.5.23)

VII 湖南省で一大錫-多金属鉱床発見

湖南省地質鉱産局湘南地質隊は最近 郴県で一つの大型錫-多金属鉱床を探査・確認した。この鉱床は 有名な東坡多金属鉱床田内に位置する グライゼン-スカルン型錫-鉛-亜鉛鉱床である。初期の探査によってすでに錫-多金属の鉱量(金属量)10余万tが把握され その他にも銅 タングステン 銀 硫黄 螢石を伴い いずれも総合的に回収が可能である。

楊順家(中国地質1986.8.11)

VIII 広西壮族自治区で大型錫-多金属鉱床

中国有色金属工業総公司広西地質勘探公司の215地質隊は 広西壮族自治区の河池県で一つの大型の錫-多金属鉱床を探査・把握した。この鉱床は 大量の鉛 亜鉛 アンチモン 銀などの金属成分を含有し 稀に見る豊かな大型鉱床である。何文品(中国地質報 1986.4.7)